

第27回森吉山麓高原自然再生協議会 議事録概要

植栽区域図の分類変更について

事務局

植栽区域図の分類変更（案）について説明

佐々木委員

植栽区域の分類変更については問題ないと思います。今後植樹が不要になったときに、年度ごとに樹木の生育状況をつぶさに観察していくことが重要だと思いますが、現在の生育状況はどうなっているのでしょうか。

事務局

生育状況については、林業研究研修センターの和田委員が毎年モニタリングをしてくださっています。植樹については、以前のような大規模に実施することは難しいですが、植樹イベントは継続していく予定です。

和田委員

植樹したブナは順調に生育しています。ただ、土壌条件が悪い場所が多くあり、そういった場所は、植樹してから最初の5年間で（順調に生育しているブナの）数は減っています。

植栽区域図の分類については、当初おおざっぱに作ったものです。この場合はこの分類にするという定義をしっかりと決めたほうがいいと思います。単位面積あたりの樹種の数や大きさなど、客観的な基準の下に判断すべきです。ただ、面積が広いので、ドローンを使ってはどうかという御意見を蒔田前会長からいただいています。

船木委員

客観性という点については、私も同感です。また、横からみた写真では植栽の状況がわかりにくいので、ドローンを使って上空から撮影したほうがいいと思います。撮影した写真を見て、生育した樹木が区域の何%以上になったら森林移行区域にするといった客観的な判断をすることと、それを私たちにを見せていただくことが必要だと思います。

事務局

客観的な判断が必要だというのはおっしゃる通りですが、県の予算の都合もあるので、細かい調査は難しいという面があります。ドローンによる調査については検討して参ります。

青木会長

さきほど視察した No. 21 の植栽区域は、ススキの密度が薄く、ウワミズザクラが生えており、森林化が相当程度進んでいました。サンプルでもいいので、5m四方で何本くらい生えているのかデータを取るのほうがいいのではないのでしょうか。調査方法は、和田委員に相談した上で実施したほうがいいと思います。

和田委員

既存の分類にこだわらず、現状を示せるように新たな分類の仕方を検討してもいいと思います。

青木委員

いずれにせよ、好ましい方向に変化してきています。植樹するよりも自然遷移したほうがよりいいことは確かです。

佐々木委員

私が発言した意図は、どこまでいけば自然再生したと評価できるのかということです。「植樹により何年で再生した」という評価が得られれば、次世代に向けて重要なサンプルになります。

青木会長

どこまでいけば自然再生したと評価するのは定義が難しいところです。

和田委員がおっしゃったような方向で検討してみてもどうでしょうか。

和田委員

同じ区域の中でも森林の遷移の状況が一様だとは限らないので、区域をさらに細分化することも必要だと思いますが、あまり複雑にしても調査するのが難しくなってしまいます。

事務局

区域を設定した当時に各区域ごとの面積を測っているため、細分化すると面積を測り直しになってしまいます。

青木会長

村田委員、今日視察した中にボランティアが植樹した場所がありますか。

村田委員

おそらく No. 21 と No. 16 の一部はボランティアが植樹しています。

青木会長

No. 16 には私も今年の春入りましたが、かなり植樹されています。県の植樹だけではなくボランティアが植樹している区域もあるので、「ボランティア植栽」という分類にしてもいいと思います。どこまでいけば森林移行したと言えるのかは、和田委員や澤田委員の指導を受けて再検討してみてください。

（苗畑や笹の侵入状況について話が続く）

青木会長

脱線気味になりましたが、植栽区域の分類変更についてはもう一度整理して、再度協議してください。

事務局

承知しました。

和田委員

自然保護課で仕事をしながら、植栽区域全体の調査をするのは大変だと思います。環境省の予算などを活用して、外部委託することはできないのでしょうか。

事務局

外部委託する場合は、一般財源になりますので、難しいです。

澤田委員

国の予算の目処が立たないのであれば、森づくり税の活用を復活させるのが現実的ではないのでしょうか。

青木会長

区域全体を調査するというのであればそうですが、サンプルとしていくつか場所を設けてそこを調査するというのであれば、自然保護課の職員でできると思います。

村田委員

自然再生はずっと続けていかなければならないが、行政＋αだけで続けていけるのか心配です。なぜなら、地域住民が事業に携わっていないからです。

事務局

森吉で開催するイベントに、講師やボランティアとして地元の方を巻き込むようにしていきたいと思います。

青木会長

八峰町の白神ではイオンと連携して植樹しています。そういった企業の活動への働きかけを検討してみる必要があると思います。

佐藤委員

地元を巻き込むのであれば、どこかの小学校か中学校と連携できれば、「〇〇中学校の〇年生が毎年植樹する」ということで継続しやすいと思います。そういった話があれば県と相談して連携していきたいと思っておりますので、よろしくお願いします。

青木会長

この事業の趣旨からすれば、そういった取組が事業の目的に適うと思いますので、市が県を巻き込んで、前向きに検討していただきたいです。私たち森援隊も協力できると思います。

その他 JOGMEC のボーリング調査について

JOGMEC のボーリング調査について説明した後、以下のような意見をいただいた。

- ・鳥獣保護区特別保護地区に近接しているため、ボーリング調査の振動によるクマゲラへの影響が懸念される。慎重に進めてほしい。
- ・自然再生推進法や自然公園法上の問題はないのか。

終了